

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 RISE		
○保護者評価実施期間	令和8年2月1日		～ 令和8年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 2
○従業者評価実施期間	令和8年2月1日		～ 令和8年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月31日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	事業所と保護者の共通認識	これまで同様に連絡帳を用いてその日の児童の様子は保護者に伝達している。また、連絡帳で伝達しきれない部分は帰りの送り時において詳細を伝えている。	
2	保護者同士の関わり	保護者交流会を実施し事業所と保護者間だけでなく、保護者同士の情報・意見交換が出来る場を年1回設置している。	必要性を感じた場合は、年に複数回開催できるような常時保護者との情報共有を図っていく。
3	HPやSNS等の配信の充実	前年度同様に定期的に配信は行っている。	事業所独自の広報誌などを配信することで事業所の認知度拡大を図っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童への療育(支援)内容の質の向上及び知識の習得	専門的知識が若干少ないため、外部から講師を招き講義を受講したり、他事業所の支援内容・方法(手順)等を見学する機会を設ける必要がある。	外部研修への参加率を前年度よりも更に上げる体制づくりの構築を行う。他事業所の職員と交流を図ることで支援方法の幅を拡大していく。
2	地域交流	行政や各自治体から発信される地域イベントへの参加が年間を通して少ない。	積極的な参加と事業を展開している旨の情報発信をこの地域イベントに参加することでより多くの住民の方へ認知されるよう工夫していく。
3			